



20220701 中国四国厚生局「地域包括ケアシステム強化セミナー」

ふつうに暮らせるしあわせをどう守り支えるか

多様な主体の協働による地域包括ケア「豊明モデル」

愛知県 豊明市

略歴

松本 小牧（まつもと こまき）

豊明市 市民生活部 市民協働課 課長 （前 健康福祉部長寿課長補佐）

（一財）医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構 客員研究員

入庁以来、市民協働所管部局で地域づくりや地域課題解決に向けた住民、自治会、NPO、民間企業等との協働事業の経験を多く積む。

2012年介護保険制度担当、2015年より高齢社会に対応する地域づくり（地域包括ケアシステム）を担当。民間企業等と数多くのヘルスケアビジネスやシニア向けサービス、公的保険外サービス、移動支援事業（MaaS）などを企画、事業化。2020年日経BP全国視察ランキングにおいて総合1位となるなど、地域包括ケアシステムの「先進モデル」成長。

厚生労働省の研究事業にも数多く委員として参画。民間企業にはシニア顧客の潜在的ニーズの発掘や新たなビジネスモデルの構想支援、都道府県、市町村に対しては地域包括ケア政策立案支援、医療介護関係者の人材育成等を中心に取り組んでいる。2021年4月より現職。

（厚生労働省 研究事業委員）

- ・介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の実施状況に関する調査研究事業（H29）
- ・介護予防・日常生活支援総合事業及び生活支援体制整備事業の効果的な推進方法に関する調査研究事業（H30～）
- ・介護保険制度の実施状況に係る全体像把握のためのツールに関する調査研究事業（H31～）
- ・ケアマネジメントの公正中立性を確保するための取り組みや質に関する指標のあり方に関する調査研究事業（H31～）



目次

- 1 地域包括ケアとは
- 2 個人の課題から地域の課題へ
- 3 あるものを活かす

A市「協議体を開催しても地域課題は解決しません」

- 地域包括支援センターに圏域ごとに年5回の協議体の実施を委託しています
- 話題は、**移動支援などの壮大なテーマや要望ばかり**で、支えあい活動なんて生まれません
- **毎年同じことを話し合ってるだけで一向に解決せず**、市はなんとかしてくれないのですか？と言われます

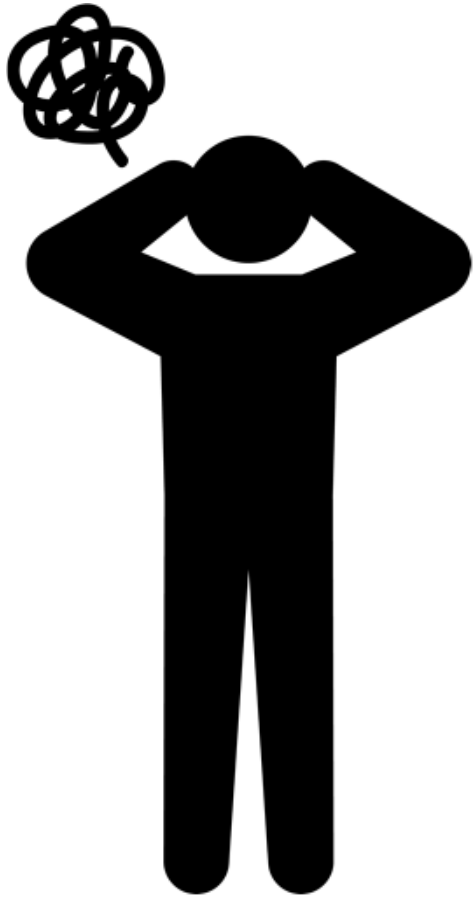


B市「多様なサービスの利用が増えませんか」



- 機能訓練デイサービスの利用希望に歯止めが効かず、プラン件数は増加しています
- サービスC（短期集中）を作りましたが、サービスB（住民主体サービス）も運営補助しています
- しかし**結局、従前相当の利用ばかりで、多様なサービスの利用が増えませんか**

C市「市と包括・S Cとの関係が危機的です」



- 生活支援コーディネーターを社協に委託していますが、**特に成果を感じません**。これまでの社協の事業といったい何が違うのでしょうか。
- 包括にはいつも「忙しい」「これ以上は無理」と言われます
- 生活支援コーディネーターは包括にとってよくわからない存在になっています。

地域包括ケア構築において陥りがちな失敗①

**国が実施を求める事業に振り回されて
目的を見失い、関係者が疲弊する**

本当に必要なのかを考えず事業の実施ありきで進めて
事業が形骸化し、職員や関係機関が疲弊する

事業実施ありきで考えない
わがまちにおいて、必要性を感じないなら
やらないほうがよい

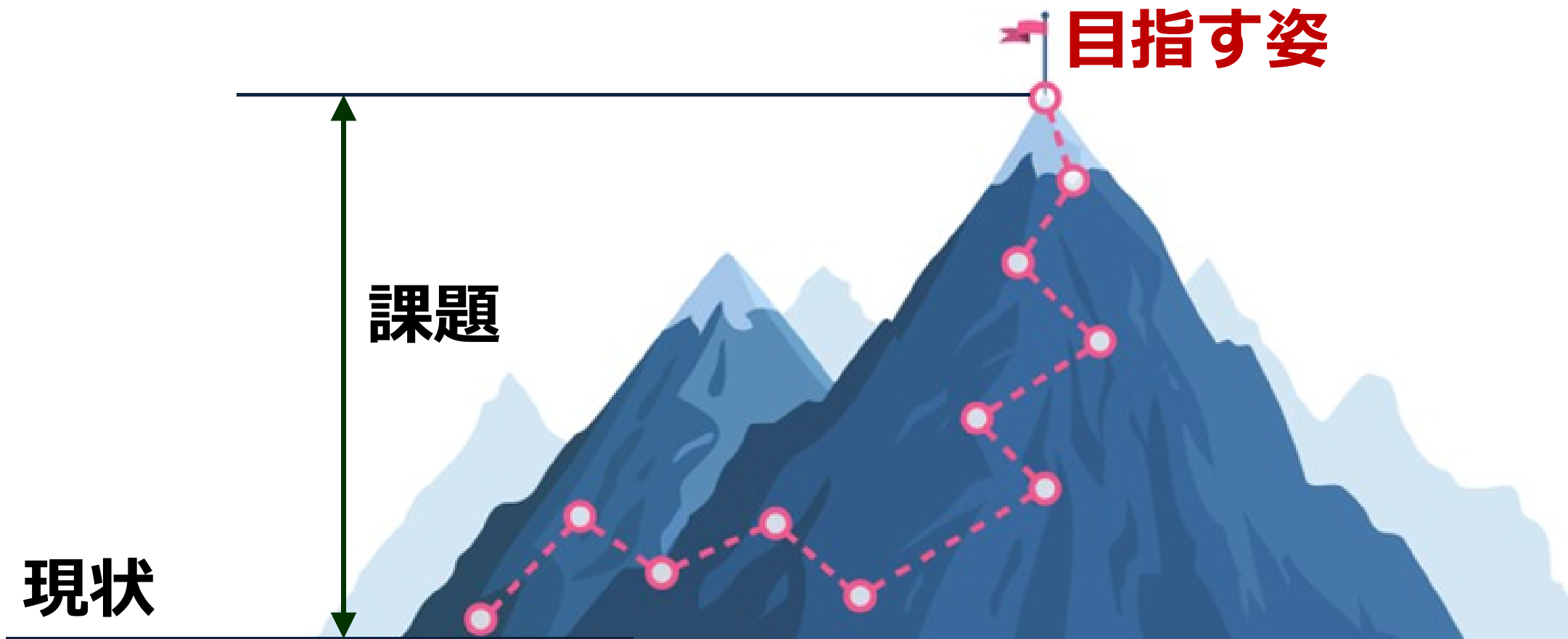
地域包括ケア構築において陥りがちな失敗②

我がまちの「課題」が見えていない

「解決すべきこと」が何か分からなければ
それがわがまちに必要な事業かどうかの見極めができない

地域包括ケアの構築は山登りに似ている

山頂までの道はいくつもある



あらためて
地域包括ケアって何？
あなたなら、どう説明しますか？

地域包括ケアとは：2つのコンセプト

統合ケア (integrated care)

- 急性期から回復リハビリ期、慢性期等の様々なレベルの医療・ケアが、高齢者の状態に応じて適切に調整され、連続性を持って提供される。

地域を基盤とするケア (community-based care)

- 地域の健康上のニーズ、健康に関する信念や社会的価値観にあわせ、**人々の住まいや暮らしを中心に、医療・介護・予防・生活支援**（住民同士の助け合いも含む）などが、**地域社会の参画により構築されるケア**

地域包括ケアシステムが目指すもの

地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律

第1条

地域包括ケアが目指すもの

「地域包括ケアシステム」とは、

地域の実情に応じて、高齢者が、可能な限り、**住み慣れた地域**でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、

医療、介護、介護予防（要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。）、**住まい**及び自立した**日常生活の支援**が**包括的に確保される体制**をいう。

地域包括ケアの定義

医療の大転換

	19世紀後半	21世紀
寿命	50歳まで	85歳以上
原因	外的・母子	老化
疾病	単一	複数
経緯	単一エピソード	継続発症
目標	治癒・救命	機能改善・人生支援
目的	治す医療	支える医療
場所	病院	地域

参考：長谷川俊彦「地域連携の基礎理論としてのケアサイクル論」

地域包括ケアシステムが目指すもの

日常



非日常

自宅・地域



リハビリ



通所



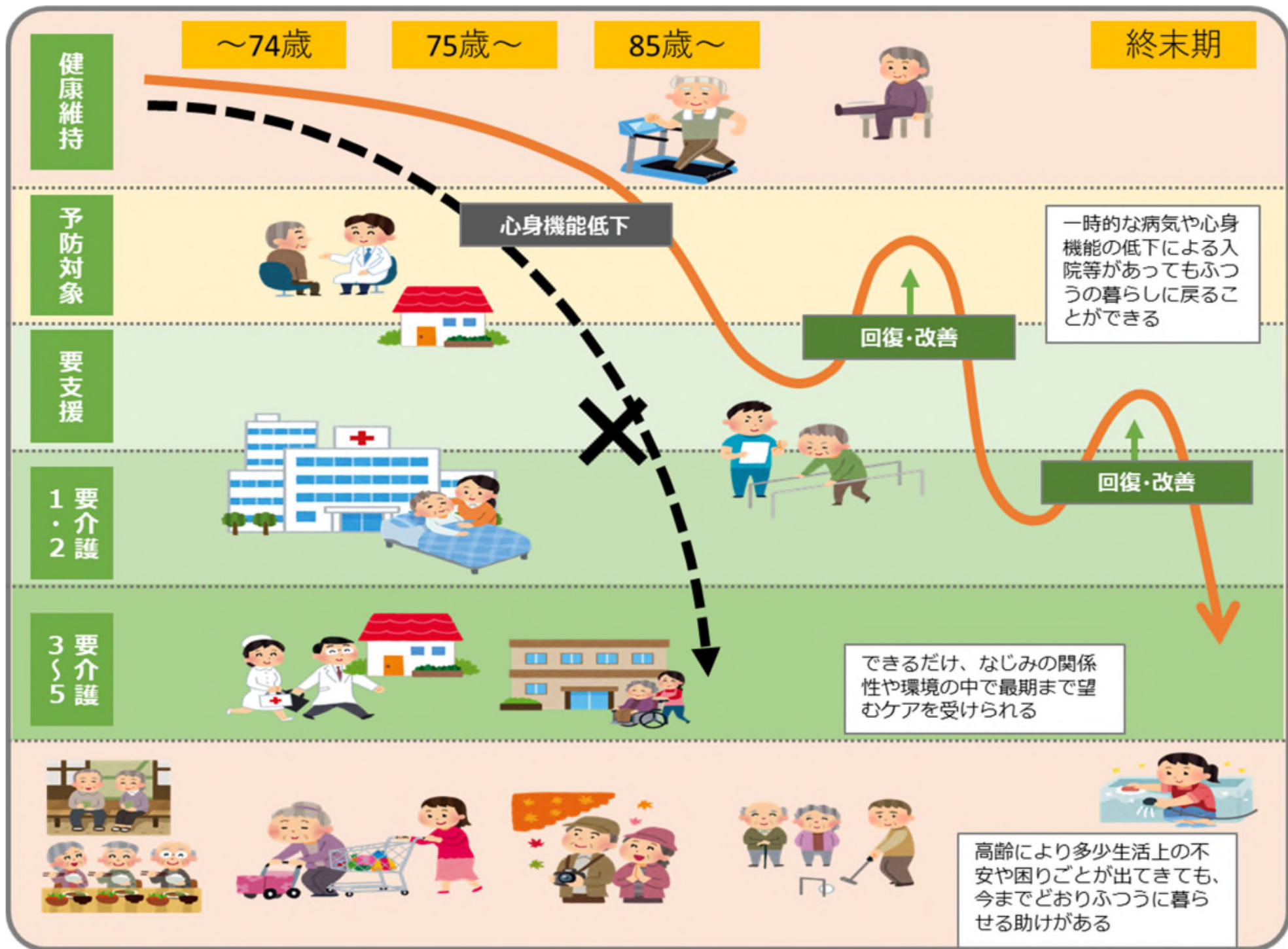
病院・施設

入院



入所





あなたは、日々の暮らしの中で
どんな時に「健康」や「幸せ」を感じますか？



「おだやかな暮らし」「ささいな幸せ」「真の豊かさ」
ふつうに暮らせるしあわせをいかに守り支えるか

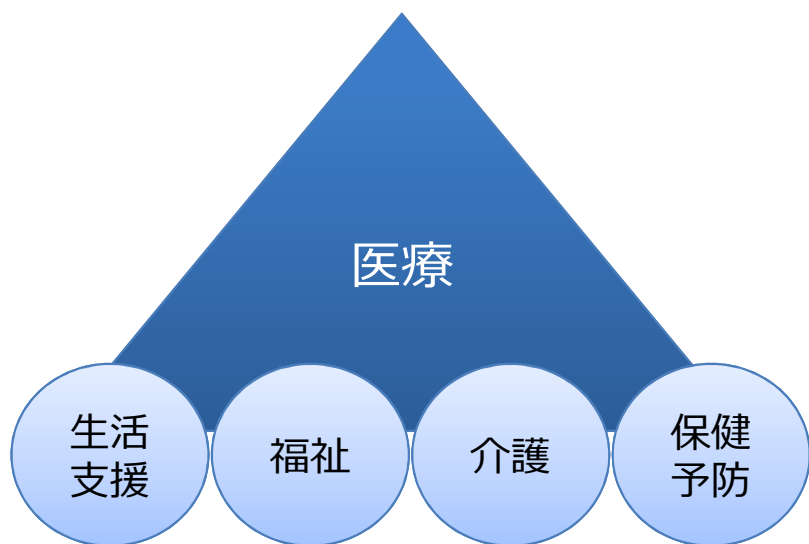


地域包括ケアの本質は生活モデル化

医学モデル

- ・健康とは医学的な意味で病気でないこと
- ・病気を取り除くことが医療の目的

CURE志向（医療）



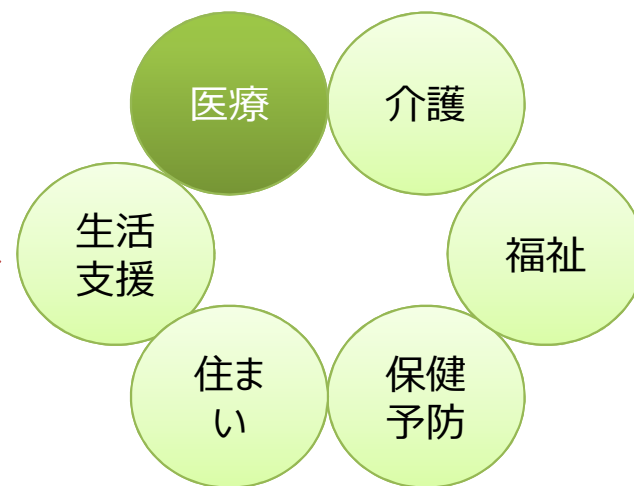
健康概念の転換

生活モデル

- ・健康とは生活の質の高さ
- ・健康とは当事者の健やかな生活がもたらされること

CARE志向（福祉）

ヘルスケアシステムの
転換



ふつうに くらせる しあわせ
それを支えるすべてがケア

できるだけ本人の「普通の暮らし」を守る そのためには？

再入院・施設入所リスクを防ぐ



廃用・重症化予防

- 本人の「よくなりたい」という意欲を引き出す
- **廃用予防**(運動、リハビリ)、**医学的管理**(通院・服薬)、**栄養管理**(食事・水分)を指導

自宅での生活が成り立っている



生活支援・自立支援

- **こんな生活をしたい**を実現するため、**できないところだけ**を支援
- 制度になくても生活に役に立つものを見つけ、探す、創り出す



目次

- 1 地域包括ケアとは
- 2 個人の課題から地域の課題へ
- 3 あるものを活かす

地域包括ケア構築において陥りがちな失敗③

個別ケースで見えてきた気づきから
うまく地域課題を捉えられていない

基礎自治体は、個別ケースの積み重ねから得られる地域
課題のヒントは無限にあるがその強みを活かしていきれていない

課題とは何か？

「セブンイレブンに行きたいのですが
どっちに行けばいいですか？」



課題とは何か？

「この近くのセブンイレブンはどっちに行けばいいですか？」

「まっすぐ行って、次の信号を右に曲がって500mぐらい行くと左手にあります。」

これは正しい答えでしょうか？

課題とは何か？

この女性は
なぜ セブンイレブンに
行きたかったのだろうか？



課題とは何か？

住民は必ずしも「課題」を
語っているわけではない

「要望」と「課題」
同じではない

地域課題とは何か？

ひとり（個人）の課題
みんな（地域）の課題

どう考えればよいのか

地域課題の解決策を考える

スーパーへ行きたいけど
そこまでの交通手段がない
移動サービスを作ってほしい

どうしますか？

地域課題の解決策を考える

〇〇へ行きたいけど
そこまでの交通手段がない

誰が、何をできなくて
困っているのか

	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	
どこへ 行きたいのか	スーパー	かかりつけ医	公民館	駅前	墓園	
何ため？	食料品の 買い物	受診	趣味サークル 参加	映画鑑賞	墓参り	
頻度	週1回	月1回	月2回	年に数回	年2回	
今は どうしている のか	徒歩	家族の送迎	友達の送迎	コミュニティバス	タクシー	
課題設定	個人の 課題 として 捉える例	Aさんが 食料品を 手に入れるには	Bさんが 定期的な受診が できるには	Cさんが 趣味を続けること ができるには	Dさんが 好きな映画鑑賞 ができるには	Eさんの 墓の管理が できるためには
	地域の 課題 として 捉える例	市民の安価な外出手段を確保するには				
		地域の高齢者が 食料品を手に入れ ることができるには	身近な かかりつけ医を持ち 適切に疾病管理 ができるためには	免許を返納しても 多様な趣味を継続できるには	世話が 難しくなった 墓の管理を 地域でどう支えるか	

地域課題の解決策を考える

課題の大きさ、影響度

課題の深刻度

使えるお金の額

などから

よりベターな方法を考える

個別ケースから考える

どんな高齢者の何を解決したいのかを
具体的にイメージすること

多職種合同ケアカンファレンスの様子

【参加者】

地域包括支援センター、ケアマネジャー、サービス事業所（看護師、リハ職、相談員等）、MSW
医師、歯科医師、薬剤師、PT、OT、ST、保健師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、司法書士、
生活支援コーディネーター、障がい者基幹相談支援センター、生活困窮自立生活相談センター
権利擁護支援センター、大学病院実習生、民間企業 ほか



多職種合同ケアカンファレンスが貫く ただひとつの理念



「おだやかな暮らし」「ささいな幸せ」「真の豊かさ」
ふつうに暮らせるしあわせをいかに守り支えるか



グラウンドルール 3Ground Rules

① オープンカンファレンス式

参加自由（無報酬） アドバイザー不在（対等な関係）
それぞれの専門分野の英知の結集

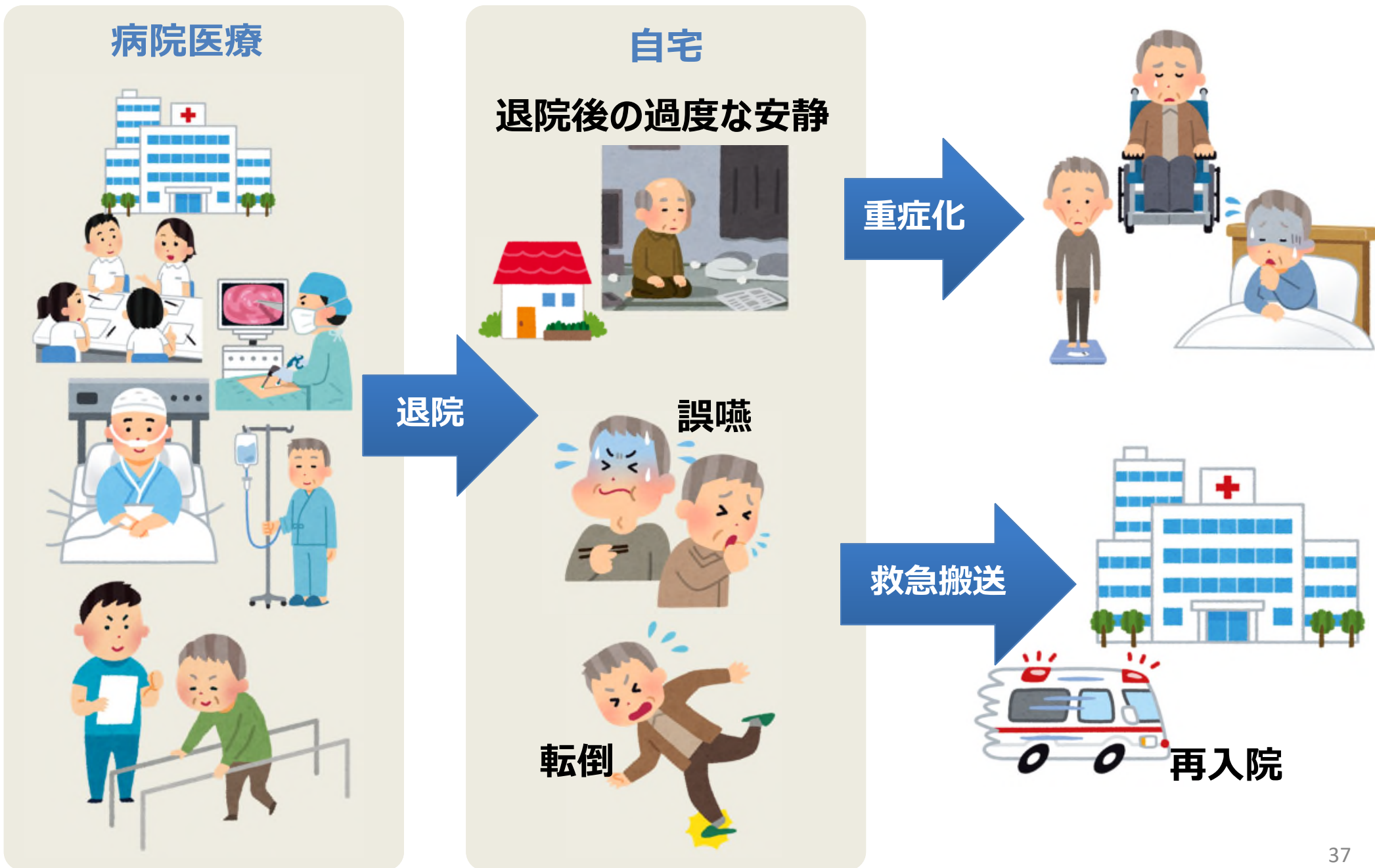
② ケーススタディ型

よくある症例を検討 この方「で」考える 次に活かす

③ 「生活モデル」に基づくディスカッション

暮らしを支える視点で検討 議論ではなく対話重視

切れ目のない支援とはどういうことなのか？



多職種合同ケアカンファレンスで出てくる「あるある」

免許を返納して、移動の足がないので、デイサービスをやめたらほかに行く場所がない

買い物は自分の目で見て買いたい。でも、荷物を持って歩いて帰れない

友達が通っているあの●●デイサービス（機能訓練デイ）に行きたい

本人は外出意欲がないが、家族は、このままだと体力が落ちるので、なんとかデイサービスにでも行ってほしい



地域の通いの場に通いたくても、認知症があるので、日にちを忘れるし、一人では行けない

本当にデイサービスやヘルパーで課題は解決するのか
本人にとって「何が課題」でサービスによって「何を目指す」のか？

包括ケアとは何か？

生活課題	Aさん	Bさん	Cさん	Dさん	Eさん	Fさん
下肢筋力低下	○	○	○			○
心肺機能低下	○			○		
政策① 認知症の進行	○	○		○	○	
低栄養・体重減少		○		○		○
政策② 意欲低下		○				○
外出手段	○		○		○	
政策③ 社会交流少ない	○	○	○	○		
服薬管理	○			○		
独居・遠方家族			○	○	○	○
痛み・しびれ	○			○		
難聴		○				○

多職種間の専門性の技術移転

気にする「目」がないと・・・



相談窓口を設けても
ケアマネからの相談がない



在宅ケアをやりたいが
依頼がこない

カンファレンスの効果

歯はどこ
が残って
いる？

これは薬
の
副作用？

スーパー
までの距
離は？

体重
減少？



しなく
なった活
動は？

よく転倒
してる場
所は？

薬が
多すぎ？

水分不
足？

気にしてもらえるようになって初めて依頼や相談がある

生活ニーズが分かってはじめて これまで見えていなかった「資源」が見えてくる

事例で磨かれた「勘」

昔カラオケが
好きだった

買い物したい
が、袋を持って
帰れない

送迎付きの
お出かけ先

自分で歩いて
行ける場

これ使えるかも



生活支援コーディネーター





目次

- 1 地域包括ケアとは
- 2 個人の課題から地域の課題へ
- 3 あるものを活かす

総合事業開始後の支援イメージの変化

「卒業しなくてもいい」ふつうの暮らしに戻す支援

一時的な
活動追加

PLUS 集中介入期(非日常)

元気アップ集中リハビリ
(公的保険サービス・総合事業)



日常生活へ移行



BASIC 基本メニュー(日常)

- ・まちかど運動教室・サロン
- ・趣味のサークル、友人づきあい
- ・普段の家事等の役割
- ・市場サービスの利用
(フィットネスクラブ、ショッピング、娯楽、喫茶店、温泉、旅行)



以前の暮らし

普段していたこと
しなくなったこと

専門的支援Start

3~6Month

1Year

公的保険サービスと保険外サービスを当初から併用利用で支援開始
暮らしの場における外出を促すことで活動量を増やし、普通の暮らしへ戻していく

生活行為を獲得し日常の暮らしの場へ戻す



使える資源は地域に無数にある

公共関係	地域・NPO	協同組合	民間企業	
場所 集会所・公民館など 公園・池・史跡 ゴミ置場など	健康 地域の集い 老人クラブサークル	交流 空き家改修 地域拠点	食事 喫茶店・居酒屋・回転すし ファミレス・牛丼屋	宅配 弁当・すし・ピザ
健康 貸館施設の定期活動 まちかど運動教室	健康 ウォーキングG ノルディック 史跡巡り 朝のラジオ体操	健康 たまり場 サークル活動	食料品 コンビニ スーパー 八百屋 果物屋 菓子店 たまご・お米・牛乳屋	美容 理美容院 クリーニング屋
移動 市のバス停・ルート 福祉バス停・ルート	生活支援 自立生活支援 ボランティア	生活支援 おたがいさまシート くらしたすけあい	薬・生活用品 薬局・ドラッグストア めがね屋・補聴器 100円ショップ	趣味 楽器・カラオケ店 本・ビデオ・カメラ屋 花・ ペット屋
学び 出前講座	交流 各種地域イベント 夏・秋祭り、文化祭 おこしもん・餅つき	食事 けやきの森 地産地消食堂	健康・学び フィットネスクラブ スイミングスクール カルチャー教室 公文	生活支援 家事代行・便利屋 ゴミ処理 警備・見守り
お金 各課助成金 人材 シルバーセンター アクティブシニア	防災 避難所マップ 各区情報マップ	広報 健康のとも	移動 各民間バス停ルート タクシー会社料金表 セニアカー 自転車屋	その他 ゼンリン タウンページ 新聞店 文具屋

協同組合を核としたニーズと支援のマッチングのしくみ 豊明市おたがいさまセンター「ちゃっと」



事業内容

地域組織と一体となった「おたがいさま」の復活
サービスではなく住民の互助活動として展開
ちょっとした困りごとを住民が手助けする
「互助」のコーディネート（30分以内250円）

ちゃっとコーディネーター
6名

サポーター登録人数（令和4年4月末現在）
367名

活動状況（令和4年4月分）

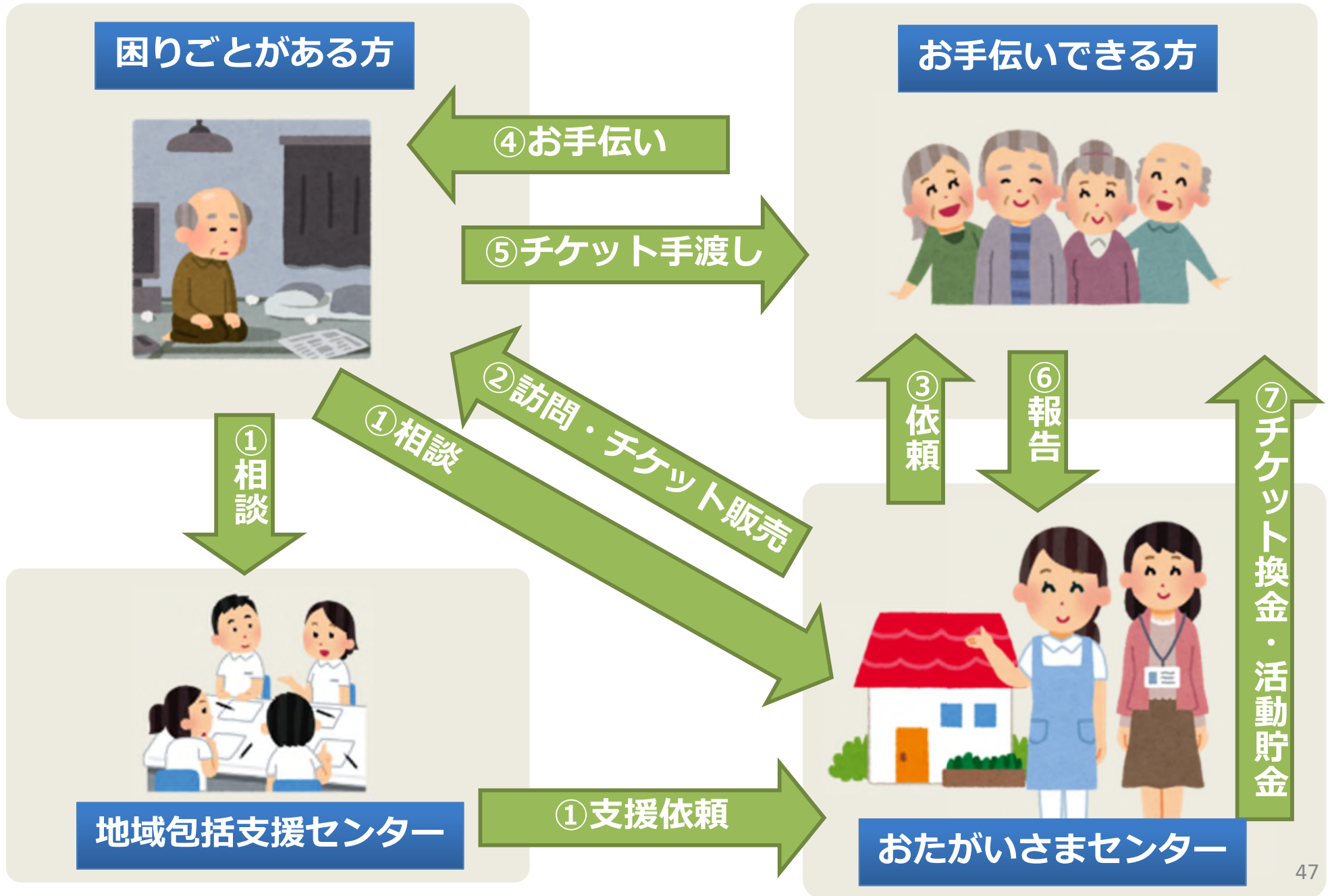
利用者数 96名（延べ308名）※
活動サポーター 90名（延べ320名）

※参考

同月の要支援の従前相当訪問介護利用者数 76名



豊明市おたがいさまセンター「ちょっと」のしくみ



日常生活支援

調理



ごみ出し



掃除

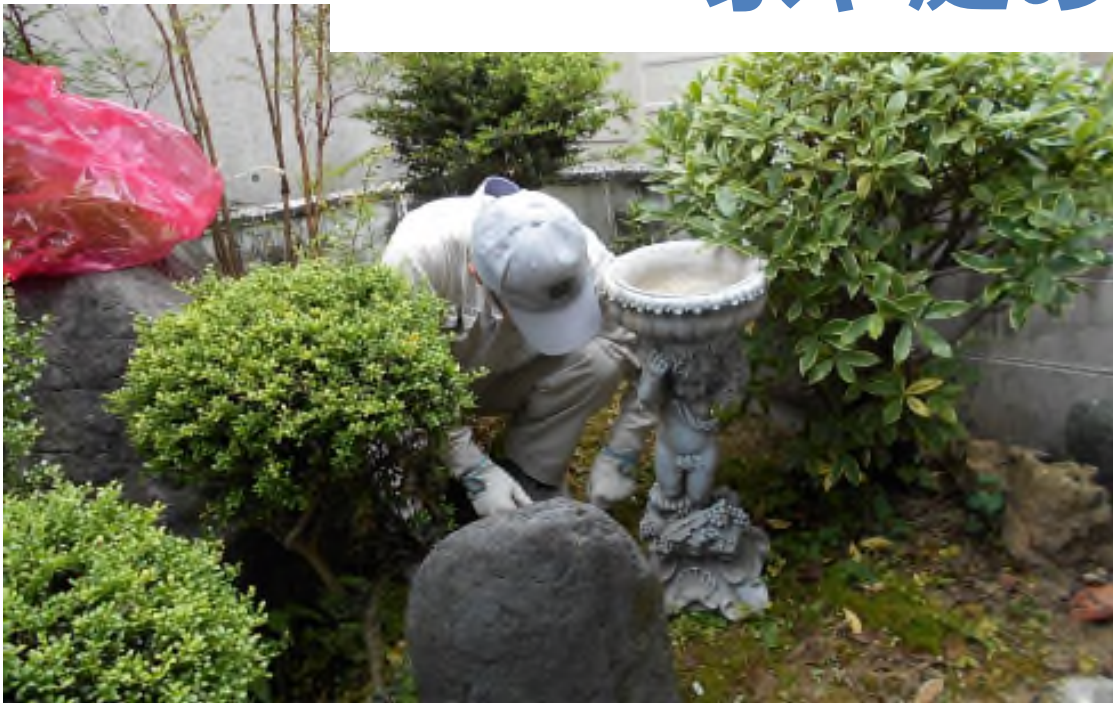


買い物





家や庭の手入れ



送迎を伴う生活支援

令和2年9月から、送迎を伴う生活支援として
通院同行、買い物等の支援を実施



地域包括ケア構築において陥りがちな失敗④

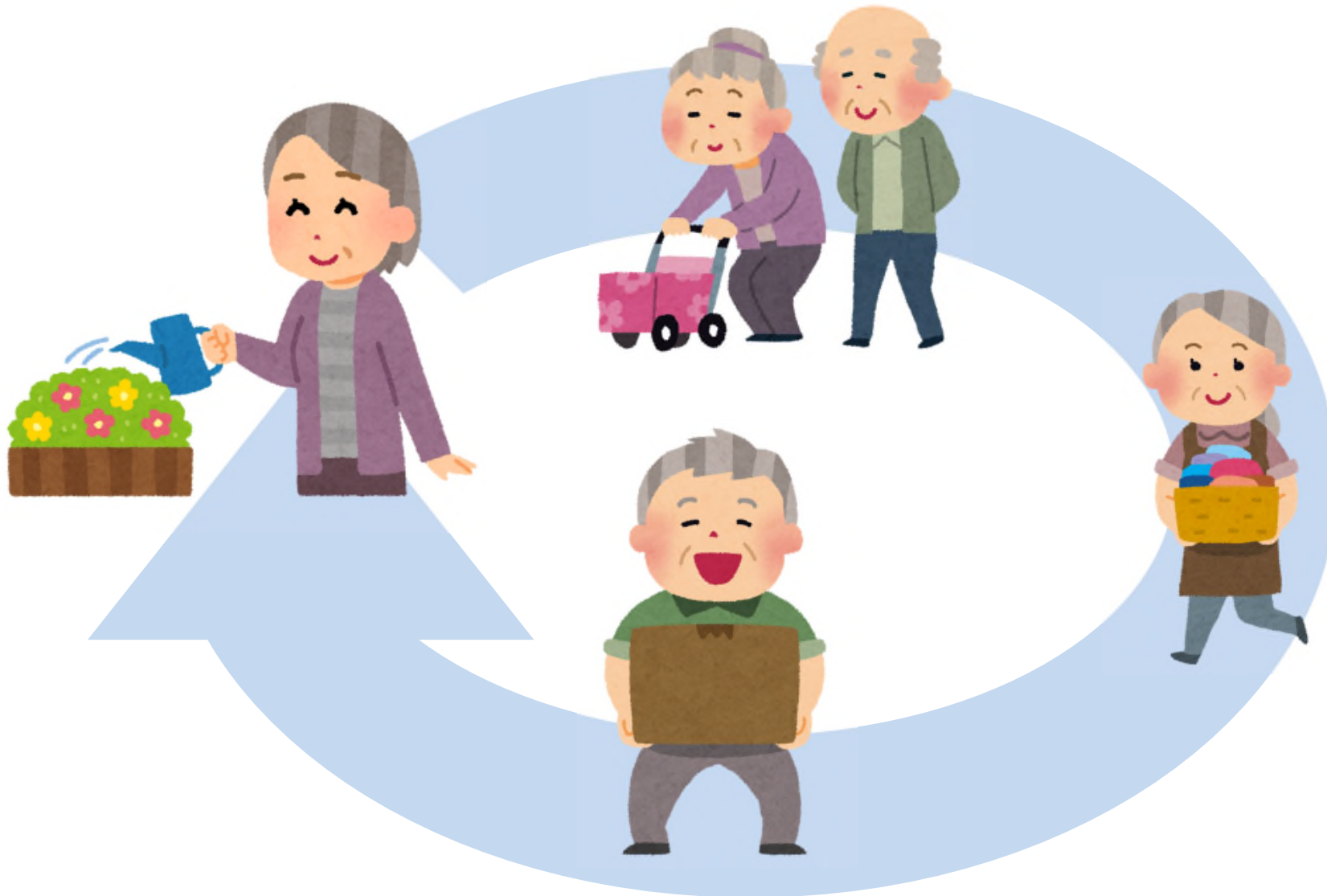
介護保険の受け皿として 住民主体の活動を利用しようとする

本来住民の意思による自治活動・互助活動
公的サービスの代替手段という意識では
住民の共感は得られない

「支える人」と「支えられる人」 分けて考えると、必ず限界がある



互助の循環はどうしたら生まれるか



各地区に出向いて実施する「おたがいさま講座」



R1おたがいさまセンターちゃっと 年間活動実績

活動時間 **2,783**件 延べ**2,887**時間

利用者

実人数**175**名

うち要介護認定者

117名(66.8%)

サポーター

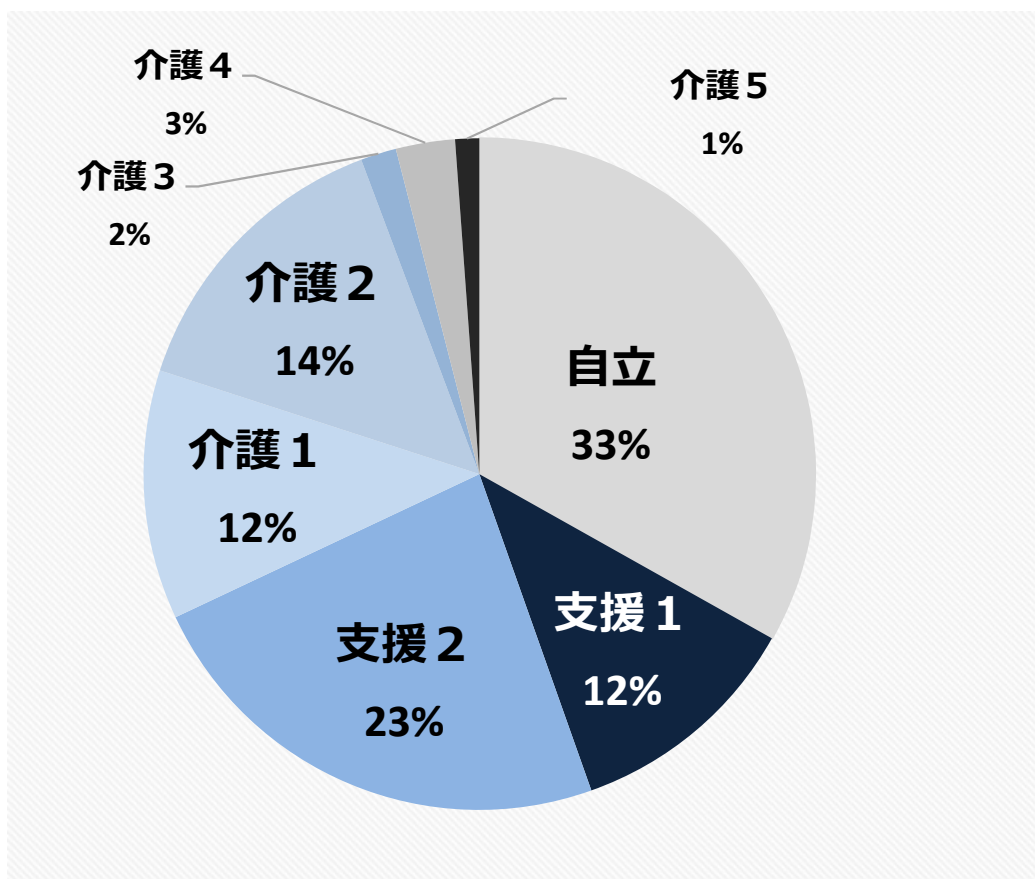
登録**266**名

うち活動者実人数

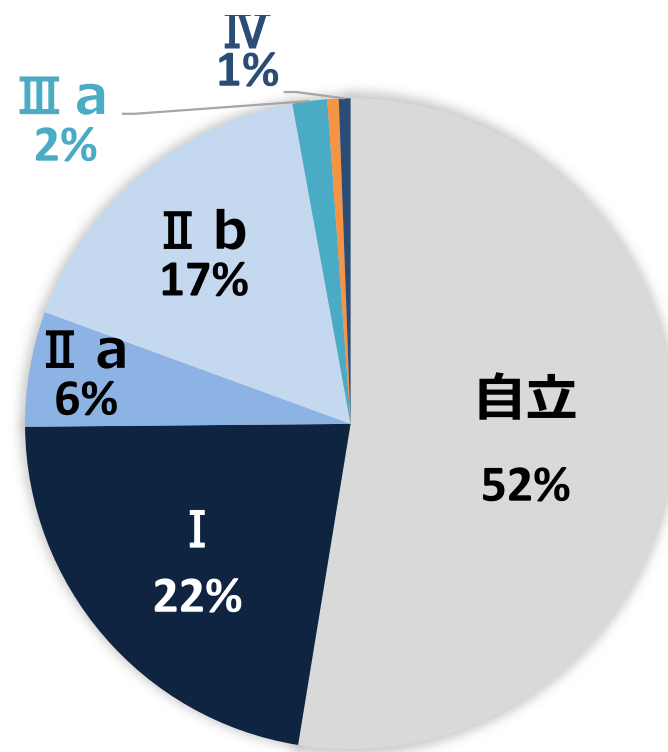
149名(56%)

R1おたがいさまセンターちゃっと 利用者の状況

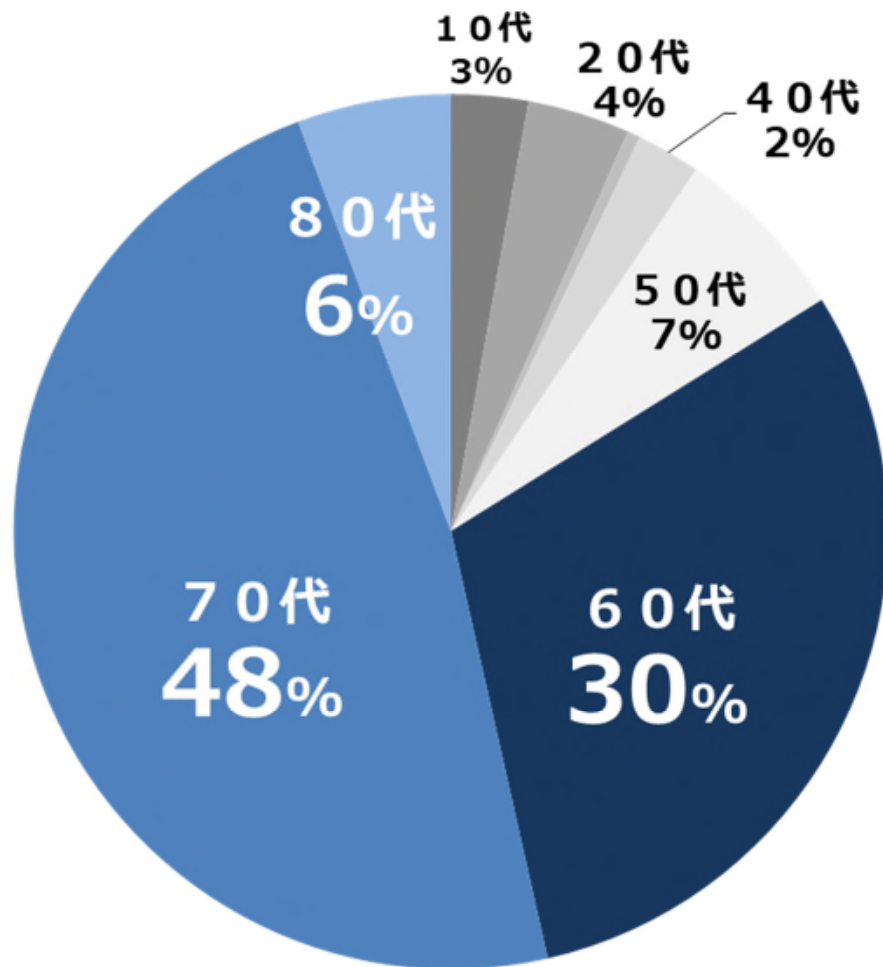
要介護認定の状況



認知症自立度



サポーターの年齢構成からみる事業意義



サポーターの年齢構成

60歳以上が **8割強**

他者の生活支援×自身の介護予防



こんなにあったのか！高齢者の困りごと おたがいさま活動の例

買い物

付き添い
代行



掃除・洗濯

換気扇、窓ふき
浴槽、トイレ
エアコン



ごみ出し

可燃、不燃
資源ごみ
仕分け
ごみ出し



食事の準備

下ごしらえ
調理
調理補助



庭・自宅まわり

草とり、水やり
庭木の簡単な枝落とし
観葉植物の株分け、
間引き
家庭菜園の作業補助



その他なんでも

敷物の交換
カーテンの取り付け
物置小屋の簡単な修理
突っ張り棒の取り付け
重い家具・荷物の移動
郵便物の投函代行
振込手続き
郵便物の仕分け
声かけ（服薬等）



外出同行

外出付き添い
通院同行
大学病院受診支援



地域包括ケア構築において陥りがちな失敗⑤

ないものねだりに陥り
すでにあるものに気づかない

事業を実施するのではなく
高齢者の生活課題を解決するために
役立つもの（あるもの）を見つける

民間サービスの活用の取組のきっかけ①



市外温泉からの無料送迎バス



(株)ナカシロ



隣接市（名古屋市緑区）の複合温泉施設の送迎バスが、豊明市内の一部の地域を走っているのを職員が発見。しかし乗車率が非常に悪かった。



送迎バスがある民間施設は、高齢者が毎日外出できる場所になり得ると考え、すぐに市からアプローチ。バスの乗車率向上の協力(住民への周知)を申し入れた。



定例ミーティングを重ね、送迎バスのチラシ、販促用の割引チケット等を共同で制作。地域住民が集まる場で、職員が直接配布し、効果を検証した。



民間サービスの活用 of 取組のきっかけ②



買った商品を無料配送するスーパー



団地プロジェクトで、買い物は**自分の目で見たい**が、買った商品を持って階段を昇ることが難しく、一度に**たくさん購入できない**というニーズを把握。

駅前に店舗を構えるコープに市からプロジェクト会議への参加を依頼。従来の個人宅配の使いにくさ等、高齢者のニーズを共に検討、**新たなサービスの検討を重ねる。**

店舗で購入した商品を無料でその日のうちに配達する「ふれあい便」をスタート。その後電話注文も対応。サービスを使った**買物方法を市がケアマネジャーや住民に周知し利用を促した。**



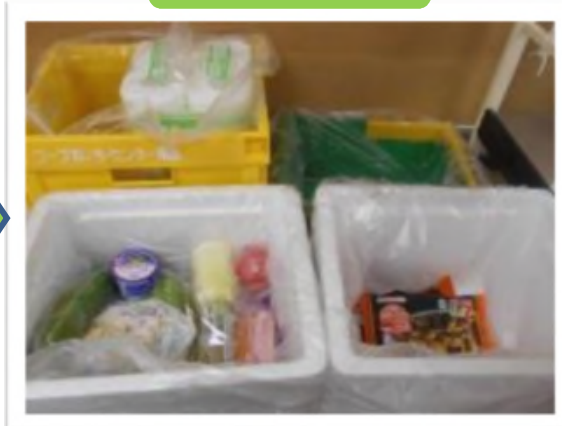
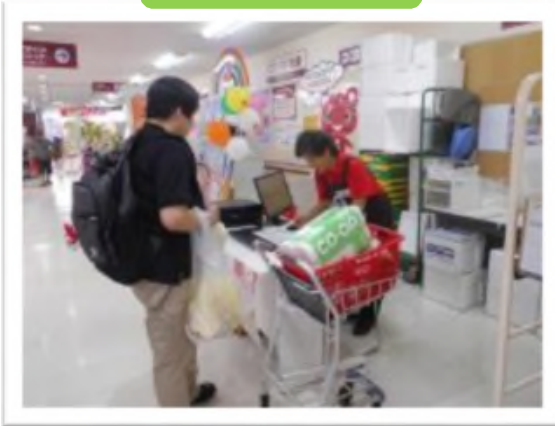


生活協同組合
コープあいち

ふれあい便

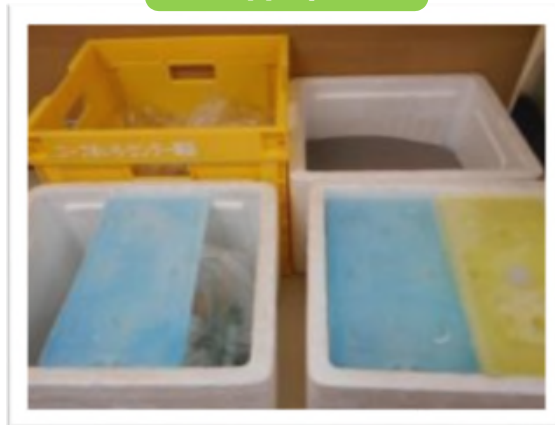
受付

セット



保冷

配送

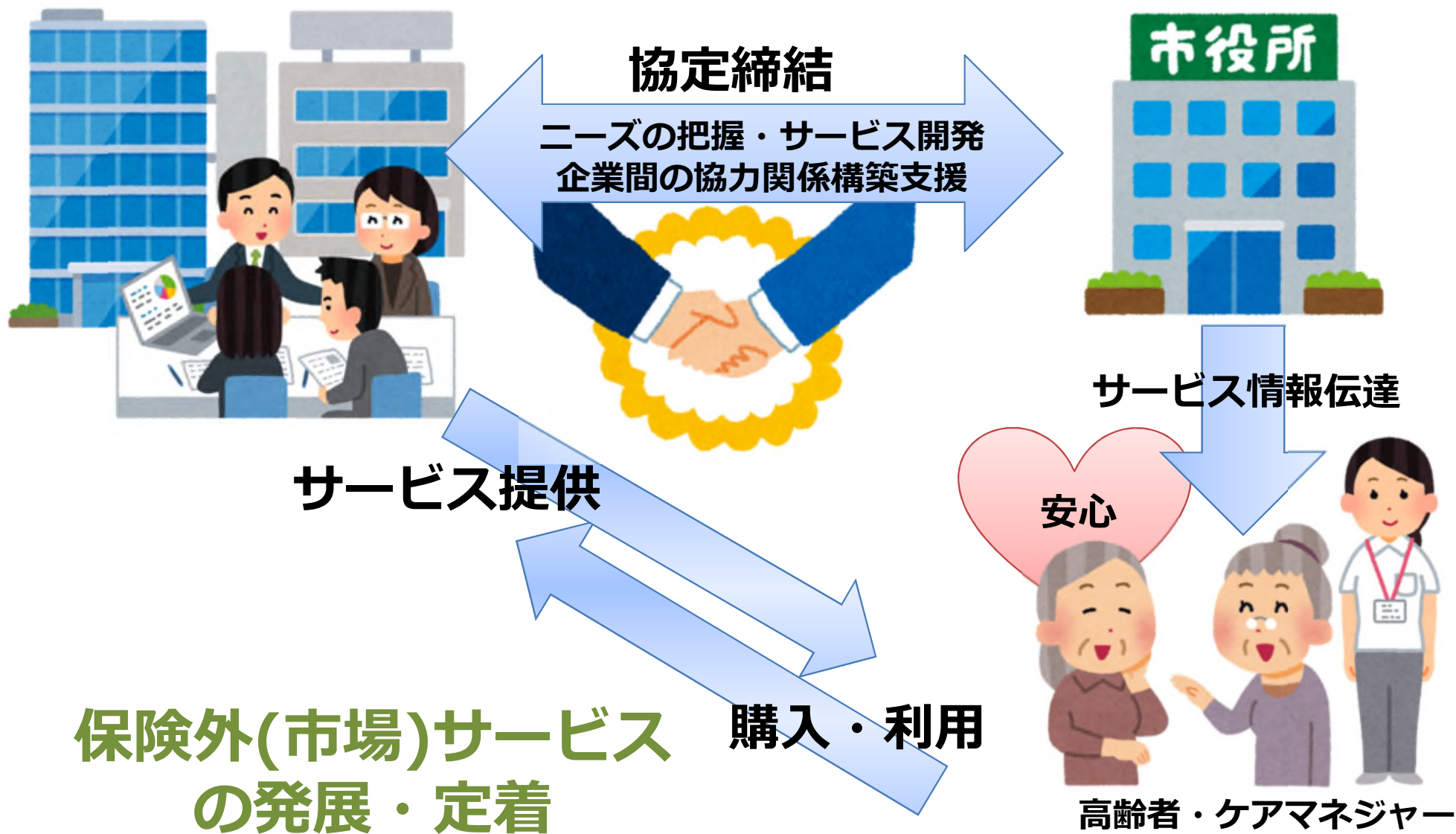


お届け



民間企業による 高齢者向けサービスの開発

自治体による サービス創出・活用支援



地域のあらゆる資源を活用した「通いの場」



無料送迎バスで天然温泉が通いの場
楽の湯みどり店(株ナカシロ)



高齢者が毎日通う喫茶店での見守り
市内70店以上の喫茶店



お寺のお堂で、男性が多く参加する健康麻雀
曹源寺



自動車販売店の商談スペースで毎日体操
名古屋トヨペット(株)豊明店

民間企業と連携し創り出す多様な「通いの場」



自動車販売店の商談スペースで毎日体操
名古屋トヨペット(株)豊明店



カラオケボックスを利用した体操教室
(株)東海第一興商



高齢者が毎日通う喫茶店での見守り
市内70店以上の喫茶店



専門職による健康チェックと体操で薬局を通いの場に
(株)スギ薬局 豊明三崎店・沓掛店

豊明市が目指す地域包括ケアの方向性



できるだけ本人の「ふつうに暮らせるしあわせ」を支える
そのために役立つものを見つける、探す、無ければ創り出す



地域包括ケアを創るための手順

資源・情報・力を集め

集約

地域へ広げ

分散

使いこなす

個別化

ケアの目的を共有
地域全体が同じベクトルへ



市民生活部 市民協働課 課長 松本小牧
E-mail : kyodo@city.toyoake.lg.jp
TEL : 0562-92-8306
豊明市新田町子持松1番地1
<https://www.city.toyoake.lg.jp/>